

いちょう祭 2014

サイエンスカフェ

体の中の掃除屋さん

マクロファージの多彩な機能

ゲスト **華山 力成** さん

免疫という生体防御システムには免疫細胞という様々な役者たちが登場します。その中で最も名前が知られているのはマクロファージ(大食いという意味)という細胞でしょう。今年のサイエンスカフェでは、華山准教授をゲストに迎え、マクロファージの多彩な機能について、体内での役割や病気との関係をふくめてわかりやすく解説します。

参加費・事前登録 ⇒ 不要です

5月3日 (土・祝) 14:00-15:30

微生物病研究所 本館 1階 微研ホール (大阪大学吹田キャンパス)

はなやま りきなり

華山 力成 さん プロフィール

大阪大学医学部医学科卒業 / 同大学院医学系研究科修了 (医学博士)

大阪大学医学系研究科遺伝学教室 助手

米国ハーバード大学医学部 HFSP フェロー

京都大学医学研究科医化学教室 助教

2011年より免疫学フロンティア研究センター 准教授

さかのうえ じゅん

坂野上 淳 (免疫学フロンティア研究センター准教授)

ファシリテーター (科学を伝える人)

アクセス

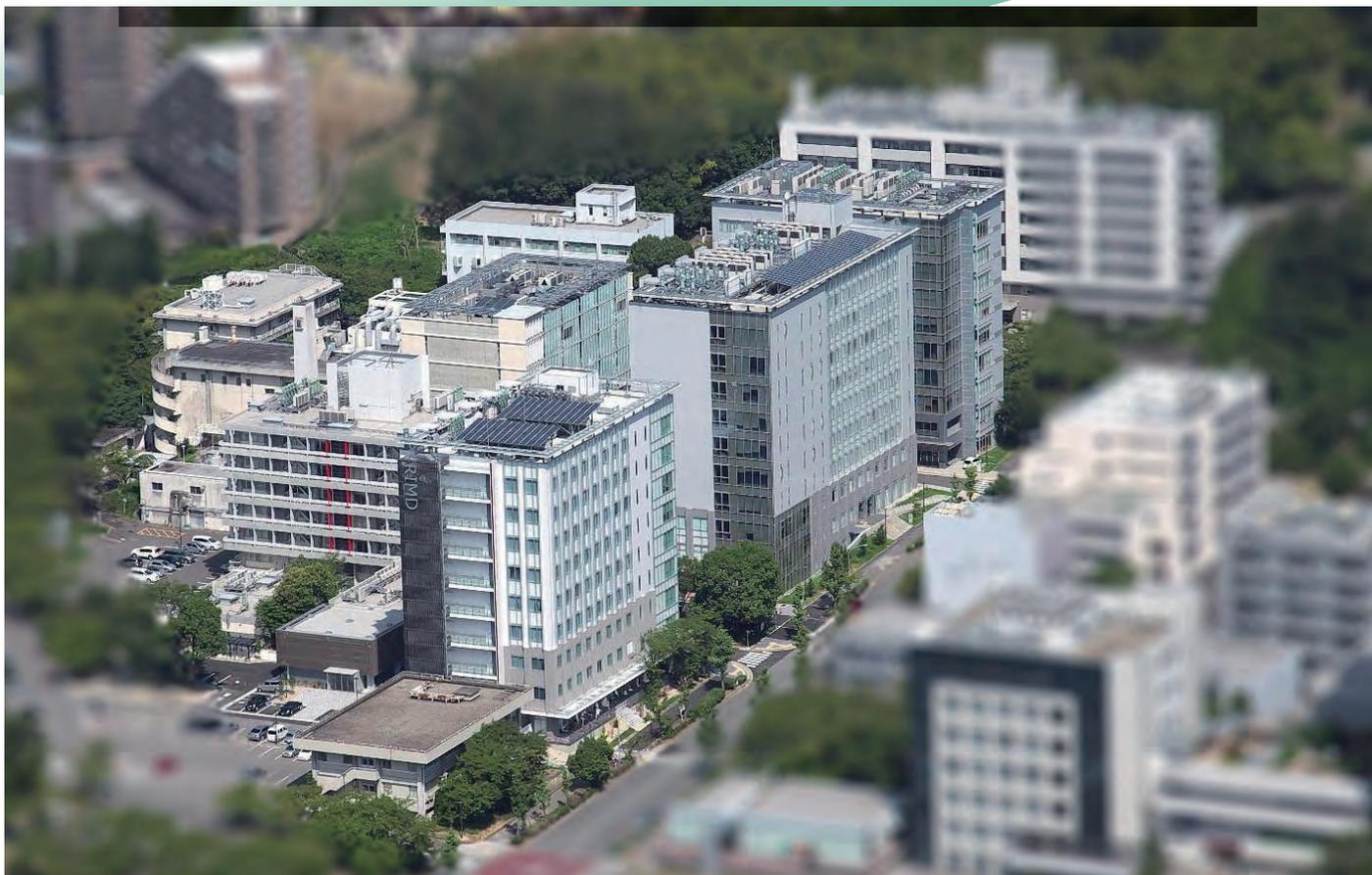
- モノレール「阪大病院前」から徒歩 約12分
- 阪急バス・近鉄バス「阪大本部前」から徒歩 約8分
- 阪急北千里線「北千里」から徒歩 約15分

お問い合わせ

- 大阪大学免疫学フロンティア研究センター企画室
- TEL: 06-6879-4273
- E-mail: j-sakano@ifrec.osaka-u.ac.jp



微生物病研究所と免疫学フロンティア研究センター



RIMD 微生物病研究所

竹尾結核研究所と大阪特殊皮膚病研究所を併せて1934年に大阪帝国大学附置の研究所として設立されました。

創立以来感染症の基礎的研究ならびにその制圧について研究を進め、新たな病原菌や病原ウイルスの発見、発病のメカニズムの解明ワクチンや診断剤の開発など、我が国の感染症及び免疫学分野で多大な貢献をしてきました。がん研究の分野においては、1936年にラジウムを使用した研究を開始するなど、がん早期発見と治療法の開発に努力するとともに、がん発生のメカニズムの研究を推進してきました。その結果、世界に先駆けた培養細胞の発がんの成功、がん遺伝子やがんウイルスの発見など多くの成果をあげました。また、本研究所で最初に発見された細胞融合現象は体細胞遺伝学の発展や単クローン抗体の開発等に貢献し、現代の生命科学の基礎を築きました。

WPI Osaka University IFReC 免疫学フロンティア研究センター

文部科学省の認定する「世界トップレベル研究拠点プログラム」に採択され2007年に発足しました。IFReCは、イメージング技術や生体情報学をツールとして、複雑な免疫系を明らかにしようと挑戦しています。将来は、研究成果をリウマチなど自己免疫疾患、アレルギー反応、感染症といった様々な免疫病の治療に役立てていきたいと日々研究をおこなっています。



微研ミュージアム

微生物病研究所創立70周年を記念して2010年12月に開館しました。ミュージアム内にはコッホの門下生である北里柴三郎ら4名が結核菌発見を記念してコッホに贈ったとされる顕微鏡、寄生虫サンプル、インフルエンザウイルスやサーズウイルスの模型（フィギュアで有名な海洋堂製）、真菌の顕微鏡像、18世紀の植物学に関する本などの展示品が楽しめます。付属のパソコンモニターにはウイルスタンパク質などの立体構造が実感できる3次元動画が付属の特殊なメガネを付けることで体験できます。室内に設置されたテレビでは毎日新しい教育用動画が放映されています。見学時間は、平日の朝9:00-17:00です（入場無料）。